

2日目

8月20日(火)

今日も暑い日である。夏の教室の最終日が開催された。

### 1時間目 三枝利多先生+野間敏克先生「経済の授業をエコノミストと作るく私たちが暮らす市場経済とは?」>

野間先生のコメントから

この試みははじめて。なぜこの企画がはじまったのかを紹介しておきたい。

東京や大阪での部会で、経済学者と現場教員の交流があるが、それを夏の教室で見せられないかというのがはじまりである。授業のなかかで、足りないものや違うものなども指摘してゆく、また、経済学者も現場の先生の実践から学ぶ。これを目指している。

三枝実践は経済学者としても学んで欲しいことがはいつているので、事前に話をしたかった。では、何を学んで欲しいか。昨日の栗原先生の報告がヒントとなる。

ひとつは、経済活動は誰もが必須で、もうやっているということである。

もうひとつは、分業と交換の利益が大切であることだ。

また、何かを選べば必ずコストがかかること、no free lunch、機会費用の考え方も教えたい。

では、ここから、三枝先生の提案にうつりたい。

### 三枝先生の提案



これまで活動型の授業の教材開発をしてきた。今回のものもそれである。

生徒参加型、活動型の授業を通して生徒に興味関心を持たせることと、経済の考え方を身に付けてゆきたいと考えている。そのためには、学習指導要領の解説から中心の概念をつかむことが大切。

例えば、経済は生活のための手段、サービス、限られた条件の下における選択など。指導要領をよく読んで、教科書の概念をどう生かすかを考えてみて欲しい。

市場経済の基本的な考え方に関しては、経済とは生活の手段、価格の役割、希少性と選択などが重要。これから分業と交換の重要性を学ばせるという教材を使った授業提案をする。

この模擬は、2010年に同種のものを行ったので承知してほしい。  
導入の授業部分をやってみる。  
以下、他会場と同じものを実践する  
先生方は2人一組、4人グループになって討論を行ない、発表を行った。  
ミッション1から3まで実施。  
全体の構造を解説する。  
活動型の授業の例として「ジグソー学習」をやるとよいと提案。  
ディベートにも取り組ませたい。調べ学習の総括として位置づけるとよいという提案も  
行って終了した。

#### 野間先生のコメント

無人島シミュレーションは出来が良い。最初は盛り上がりよいかと思っていたが、それだけでなく良く考えられている。

概念を浮かび上がらせる教材である。

その意味では、第三段階（交換）までやらないと有効性は上がらないかもしれない。  
これを現実の市場経済に近づけるために次のような発想も導入したい。

ひとつは、生産効率の上げ方である。そのなかでの、貯蓄、資本、貨幣の役割までゆけるかがポイント。ルール作りまで出てくる（襲撃、支配などを否定するためにも必要）のでここは考えさせたい。ここまででかなりで概念の学習ができるが、この先、住宅メーカーの話までゆきたい。

住宅メーカーは中間財が多い。ここに注目させたい。それがこの教材のミソ。

分業と交換の仕組みの図を活用して全体像を理解しておいて欲しい。

質問などは4時間目に聞いて欲しい

#### **2時間目 野間敏克先生講義「歴史的分野を経済で読み解く＜バブルの発生と崩壊＞」**

歴史シリーズは三年目。これまでは篠原代表が、江戸の三大改革、井上財政、高橋財政などを語った。今回は私がバブルを語る。

日本の歴史では1980年代になるが、いまや歴史である。しかし、昨日の講義でもあったように現代の経済を理解するにはバブルの理解が必要。

ここから講義本論にはいる。

基本的内容は、他地域でのものと同じなので、そちらを参照してください。

#### 新しい説明事項（配付資料にない部分）

バブルの原因の円高の理由、それを理解するための国際収支の説明を行う。

国際収支の内容を解説する。

経常収支と資本収支、現在では資本収支の方が重要になっている。国内経済と外国との関係の図で説明。外国為替市場が重要になる。

どういう場合に円の人気が高まるか。為替レートの決定要因は何か。

経常収支の要因と資本収支の要因がある。

日本のバブルの前は、本当は経常収支が黒字だったので円高になるはずだった。

ところが、レーガン政権、ボルカー政策によりアメリカの金利高からドル高（円安）が続いていた。

二つの要因がぶつかった。そのなかで、いずれドルが崩壊する、世界で調整する必要があると言う声が出て、これがプラザ合意になった。

以下は、配付資料に基づく説明に戻る。

## 質疑

### 1 金融とアメリカのグローバリズムに対する評価は？

答え 明らかにアメリカのグローバリズムの影響である。どう対処するか、アメリカでは少し規制をはじめているがそれほど強くない。世界全体で規制の標準化が進んでいる。全体としては監視を強める、規制を強める方向である。

## 3時間目 高橋勝也先生＋中川雅之先生「経済の授業をエコノミストと作るく価格ってなあに？」

高橋先生の提案



提案する高橋先生

学校の様子。9年目。卒業生を二回出した。その時、随分たたかれた。一期生は東大4人。二期生は現役5人。マスコミなどは東大だけに注目している。特別な教育をやっているわけではないのに。

それはさておき、本論。

価格ってどうやって教えていますか？

自分が中学生の時にはわからなかった。

教員になって扱いが小さくなってほっとしていたが、最近は教科書に堂々と登場してきている。

ここからは、中学生に教えている内容をそのまま紹介する。

授業で重要なのはタイトル。

いろいろな教科書で違う。グラフも扱っていない教科書もある。

使っている教科書ではグラフがあるので読み方を丁寧に教える。

事例としてDSを使っている。ほとんどの生徒は持っている。

DSが10万円だと買う人がどのくらいいる？ ゼロ。でも1人くらいはいる。グラフだ  
とここだよ。

1万5000円だったら？ 多数。グラフだとこのへんかな。

1000円になってしまったら？ もっと多くなる。グラフだとこうなるよね。

供給曲線は時間の関係上省略するが、安ければ儲けが少ないので売り手が少ないだろう、  
高くなったらみんなが売ようになるだろう。

結果としては交点できまる。それが均衡価格。

これをD、S曲線というんだよ。(生徒はDSを事例にしているので、D、S曲線でオーッ  
という)

言葉として、市場価格、均衡価格、両方教えている。先生方はどうですか？

私は、市場価格(均衡価格)と書いている。

中川先生と話して、完全にイコールではないということが分かった。

(中川先生のコメント

市場価格と均衡価格の違い。そんなに厳密に考えていない。ほとんどの場合はニアリー・  
イコール。市場価格は市場で決まる価格。均衡価格は均衡で動かない。しかし、均衡が破  
れて変化する場合がある。その場合は、均衡価格でなく市場価格が決まる場合がある。し  
かし、それは例外であるので、ニアリー・イコールでよい。)

教科書によっても市場価格と均衡価格の記述が違うところがある。

中学生はここまで。高校生はシフトまで説明する。

シフトのとき、上にシフトするのか右にシフトするのか。

(中川先生のコメント 右でも左でもどちらでもよい。)

本当にこんな決まり方はあり？

高校の場合は、完全競争市場を教えるが中学生には教えない。

あるとすると株式くらいなのか？

教える必要ないというエコノミストもいる。

でも、私は次のような教え方をしている。

価格の教え方の続編。

昨年の柳川範之先生の講演をヒントとしている。また、指導要領を参照して、楽しみながら価格について考えさせたい。

導入：みんなでテーマパークに行こう。

ケース1：15歳。卒業遠足。小遣いをもらって10時集合16時解散。

アトラクションまち3時間。並ぶか、並ばないか？

スーパーファストパス1万円があった。買う、買わない？

どんな人が買うと思うという質問を出す。

ケース2：25歳。初デート。3時間まち。

スーパーファストパス1万円。買う、買わない。

女子は買う。男子は買わない。

効率と公正を考える質問をしている。

ケース3：35歳。行列のできているラーメン屋。一杯1000円。

3000円のゴールデンシート。買う、買わない。

女子はひややか。ラーメン食べたくない。(女子用だとケーキ屋が良いようだ)

この経営者をどうおもうか？という質問をする。

ケース4：45歳。絶対に行きたいコンサート。

ファンクラブ5000円、あり？

ケース5：年会費5000円を納めると優先的に食べられるラーメンや。

このやり方はどう思う？

効率と公正をここから考えさせる。

ラーメン屋のおやじは悪者。ほんとうはファンクラブと同じことをやっているのに。

昨年の柳川講義では、おじいさんを背負ってきた若者がでてきたらどうするか？という設定だった。

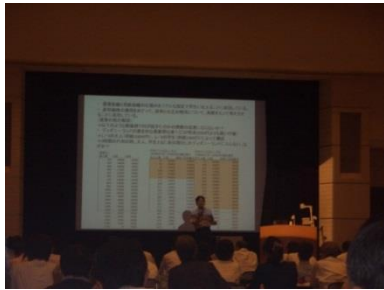
まとめ

社会科の教員として、面白い授業が肝心だと思う。

3年後になると忘れてしまわれて残念という場面もある。成長も分かる部分もある。

教科書、ノートを持ってこない授業。今日何やるのという授業。生徒の評価は高かった。

## 中川先生のコメント



コメントする中川先生

需要曲線と供給曲線はモデル。それをリアルな設定で教えることに成功していると思う。後半の事例は、経済学で言う差別価格の事例。それを巡って効率と公正について、実感をもって教える画期的なものだと思う。

いくつか補足したい。

高橋先生の授業を経済学的に解説すると以下のようなになる。

図は、混雑なしのときの付け値、これが需要曲線になる。

混雑がある場合、何が起きるのか。1時間の行列の設定 25人のおとなと75人の子どもを事例とする。おとなの自給1万円、子どもの時給1000円とする。1時間の行列の時間コスト（機会費用）を考える。

おとなのコスト=5000円+1万円=1万5000円、こども 5000円+1000円=6000円  
このままだと時間価値の高いおとながはじかれる。こどもは多く入る。

スーパーファストパスを導入したら。行列しないではいる。

何がおこるか？ 図で言う水色のところが入れ替わる。

これが不公平か。余剰という概念を導入して考える。ただし、維持コストを0とする。

おとなの入場者に何が起こったか。おとなにとっての余剰は黄色い三角形。生産者余剰は黄色い四角形の部分。白い部分は社会の無駄。

パスを導入すると、おとなにとっては事実上値下げと同じ。1万円で入れるようになる。おとなにとっての消費者余剰が増える。この時、生産者余剰も増える。余剰という概念で、社会にとって良いことを経済学では表現する。パスの導入で社会にとってのよいことをやっている。無駄を排しているわけだ。

ただし、こどもにとってはどうなるか。おとなが入ってきて、消費者余剰がちょっと減る、生産者余剰が減る。

しかし全体を足せば、社会的消費者余剰は増える、生産者余剰も増えている。はじかれるほうにとってはいや、でも、社会にとってよいこと。

ただし、この条件をもって効率と公平を考えさせてよいのか？ 私は無理があると思う。より深く理解させるには、医療のように公平性が問題になる事例を挙げたほうがよい。医療は差別価格が禁止されている。そのような事例がよいと思う。

#### 高橋先生のコメント

私は中学 10 年、高校 5 年、中高 5 年、計 20 年教壇にたってきた。

どこまで需給曲線を教えるべきか悩んでいる。

#### 三枝先生のコメント

シフトは教えていないが、需給曲線を教えている。それより価格の役割の箇所、価格によって資源を配分する機能があるという部分が教えづらいと感じている。

それを突破する試みとして、家計シミュレーションゲームで模擬商談を入れてみた。それで実際の感覚に近づいてきた。牛井やシミュレーションでも価格の役割が出てこない。バージョンアップして牛井が安くできるようになったらということをやった。

#### 大倉先生のコメント

効率と公正に関しては、判断をするときの価値基準として扱う。中学生としての価値基準。難しいことをいきなりやらせるのは難しいから、身近な事例を沢山だしながら考えさせた方が良いのではないかと。最後に、卒論でやればよい。

### 4 時間目 みんなで語ろう！＜経済教育を授業でどう生かすか＞

出席者：中川雅之先生、野間敏克先生、大倉泰裕先生、栗原久先生、三枝利多先生、升野伸子先生、高橋勝也先生。

参加の先生方は 6 グループに分かれ、1 グループ 12 分で回る方式で質疑、情報交換を行った。大変熱心に参加をされていた。



質疑をする先生方

以上で、二日に渡る教室は終了した。

なお、8月1日からの「夏休み経済教室」参加者は以下のとおりである。延べで昨年と同じく1000名を超える先生方が参加をした。また、篠原代表が出席できなかった部分を野間先生が代講したこともあり、野間先生は、全20プログラム中19プログラムに登場された。その労を感謝したい。

8月1日名古屋高校向け	56名	
8月2日名古屋中学向け	47名	計 103名
8月5日大阪中学向け	93名	
8月6日大阪高校向け	77名	計 170名
8月8日福岡中学向け	40名	
8月9日福岡高校向け	42名	計 82名
8月12日東京高校向け①	183名	
8月13日東京高校向け②	182名	計 365名
8月19日東京中学向け①	163名	
8月20日東京中学向け②	122名	計 285名
全体で		計 1,005名 (昨年 1,009名)

記録・文責 新井